

ヴォリュームアキュライザーの活用(10)

—複数箇所への同時適用(7)—

1. 始めに

今回は、JBL4350A を駆動するマルチアンプシステムを構成する機器のヴォリュームに適用してみます。

2. ヴォリュームアキュライザーVRA-7 の試聴方法

JBL4350A の 250Hz から 12.5KHz の駆動を受け持つ芦屋ベルステレオオリジナル RCA 45pp アンプのヴォリュームへの適用は、ヴォリュームアキュライザーの導入(22)で、また、チャンネルデバイダーF15 への適用はヴォリュームアキュライザーの活用(3)で報告しています。

今回は、VRA-7 を追加購入し、ヴォリュームアキュライザーの導入(2)で報告した TruPhase のヴォリュームに加えて、JBL4350A の 250Hz から 12.5KHz の駆動を受け持つ芦屋ベルステレオオリジナル RCA 45pp アンプのヴォリューム、およびチャンネルデバイダーF15 の 250Hz から 12.5KHz の Mid レンジと 250Hz 以下のダブルウーファアの Low レンジのレベル調整ヴォリュームの同時適用を行います。音源はヴォリュームアキュライザーの導入(2)で使用したアナログ盤を使用します。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーヴェン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

Angel (東芝 EMI) AA 9117・C

ゲオルグ・フドリッヒ・ヘンデル メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

3. ヴォリュームアキュライザーVRA-7 の試聴結果

順序として、TruPhase のヴォリュームだけに VRA-7 を貼った状態で聴いておき、ついでチャンネルデバイダーF15 の 250Hz から 12.5KHz の Mid レンジと 250Hz

以下のダブルウーファースの Low レンジのレベル調整ボリュームの同時適用を行い、さらに 50Hz 以下のダブルウーファースのレベル調整ボリュームの VRA-7 は残して、250Hz から 12.5KHz の Mid レンジの VRA-7 を 45pp アンプのボリュームに貼り替えます。



このような処置は、VRA-7 が 5 個しかないことと、ボリュームのあるパワーアンプは Mid レンジ駆動の 45pp アンプのみであること、さらにチャンネルバイダー F15 のレベル調整は、L/R の Low/Mid/High の計 6 個あることから、音質に大きな影響を与えると思われるものに優先的に配分したことによるものです。

まず、TruPhase のボリュームだけに VRA-7 を貼った状態では、これだけで、JBL4350A の暴れがとれて、抜けの良さや押出の良さが前面に出て様変わりします。

さらに、チャンネルバイダー F15 の 250Hz から 12.5KHz の Mid レンジと 250Hz 以下のダブルウーファースのレベル調整ボリュームの同時適用を行いますと、Bach の Sonatas & Partitas は、ミルシュテインのヴァイオリンの艶がいつそう向上します。

選帝侯のソナタは、アンダのピアノの美音はそのままに、スケール感が出てきます。

ワルキューレは、音が緻密になった分、迫力が真にせまり、JBL4350A でないと表せないような押出がでてきます。

メサイアは、合唱の分離が向上して迫力が増し、シュワルツコップの声も伸びやか

になります。

さらに、250Hz から 12.5KHz の Mid レンジのレベル調整ボリュームから、45pp アンプのボリュームに貼り替えますと、基本的な印象は、F15 の 250Hz から 12.5KHz の Mid レンジのレベル調整ボリュームに貼っていた状態と変わりはありませんが、その場合の方が鮮烈な音がしており、45pp アンプのボリュームに貼り替えた方が落ち着いた音があります。

いずれにせよ、パッシブアテネーター、チャンネルデバイダー、パワーアンプの複数適用は大きな効果を認めたことに違いはありません。

4. まとめ

JBL4350A を駆動するマルチアンプシステムを駆動する複数の機器のボリュームへの VRA-7 の適用は、チャンネルデバイダーも含めて、大きな効果を認めました。

以上